

平成 29 年度事業報告

事業の概要

平成 29 年度は、次の事業を実施した。

1. フォーラム「メンタルヘルスの集い(第 32 回日本精神保健会議)」の開催

2018 年は、当会の前身となる精神病患者慈善救済会（1902 年）を設立した呉秀三東京帝国大学教授が、わが国近代精神医療の原点とも言える「精神病患者私宅監置ノ実況及び其統計的観察」論文の発表（1918 年）から 100 年となる。そこで今回の「メンタルヘルスの集い」は、この論文発表 100 周年記念フォーラムとして、公益社団法人日本精神神経学会、公益社団法人日本精神科病院協会、一般社団法人東京精神科病院協会、公益社団法人日本精神神経科診療所協会、日本精神保健福祉政策学会、日本精神医学史学会との共催で実施した。冒頭、来賓としてお迎えした呉秀三の二人のお孫さんに、現在製作中の記録映画「夜明け前—呉秀三と無名の精神病患者の 100 年」を収録した DVD の目録を贈呈した。

本フォーラムは、呉秀三の私宅監置論文の中にある「わが邦十何万の精神病患者は実にこの病を受けたるの不幸の他に、この邦に生まれたる不幸を重ねるものというべし」という、有名な“二重の不幸”をキーワードに「“二重の不幸”から 100 年—わが国の精神医療がたどった道とこれから」をテーマとした。そして改めて呉秀三の業績に光を当てるとともに、わが国の精神医療の歴史を再検証し、現状を把握し、今後の精神医療、保健、福祉の改善を図ることを目的に、以下のよう内容で実施し、ホール定員を上回る 615 名が参加した。

また、フォーラムと併催で朝日ホールの 1 フロア下にある朝日スクエアで、「精神病患者私宅監置と日本の精神医療史」というテーマで展示会を実施し大勢の来場者があった。展示資料は愛知県立大学の橋本明教授、精神科医療史資料室青柿舎を主宰する岡田靖雄氏、都立松沢病院、小峰研究所の小峯和茂氏にご協力をいただいた。

このフォーラム及び展示会の企画・実施にあたっては広瀬徹也氏を委員長に、竹島正、樋口輝彦、藤井克徳、松村英幸の各氏に準備委員を委嘱した。

なお、本フォーラムは「平成 29 年度健康や命を守る医療の活動」として、公益財団法人 J K A より競輪公益資金の補助を受けて実施した。

メンタルヘルスの集い（第 32 回日本精神保健会議）

日 時：平成 30 年 3 月 3 日（土） 10：00～16：00

会 場：有楽町朝日ホール（東京都千代田区有楽町 2-5-1）

テーマ：“二重の不幸”から 100 年—わが国の精神医療がたどった道とこれから

内 容：映画「夜明け前―呉秀三と無名の精神障害者の100年」予告編上映

：対談 日本の精神科医療における呉秀三先生の業績

岡田靖雄（青柿舎・精神科医療史資料室）

橋本 明（愛知県立大学教育福祉学部教授）

紹介者 広瀬徹也（公益財団法人日本精神衛生会監事）

：シンポジウム “二重の不幸” から100年

―わが国の精神医療がたどった道とこれから

シンポジスト

樋口輝彦（国立精神・神経医療研究センター名誉理事

日本うつ病センター理事長）

山本輝之（成城大学法学部教授）

田中秀一（読売新聞東京本社調査研究本部主任研究員）

山本深雪（認定NPO法人大阪精神医療人権センター副代表）

柏木一恵（公益社団法人日本精神保健福祉士協会会長）

指定討論

平川淳一（一般社団法人東京精神科病院協会会長）

本條義和（公益社団法人全国精神保健福祉会連合会理事長）

コーディネーター

夏苺郁子（やきつべの径診療所）

藤井克徳（認定NPO法人日本障害者協議会代表）

総合司会 池田真理（東京女子医科大学教授）

参加者：615名

このフォーラムの内容は本会の広報誌「心と社会」172号（平成30年6月発行）に収録する。

2. 精神保健シンポジウムの開催

全国の主要都市において、その地域の大学・精神保健関連団体等と共催で、地域が直面する精神保健に関する課題等をテーマにシンポジウムを開催しているが、本年度は下記のとおり実施した。

①第71回精神保健シンポジウム（札幌）

日 時：平成29年5月13日（土） 13：00～16：30

会 場：札幌医科大学臨床教育研究棟講堂（札幌市中央区南1条西18丁目）

共 催：札幌医科大学医学部神経精神医学講座（河西千秋教授）

テーマ：身近なひとの“こころの危機”に向き合う

：シンポジウム

「自殺問題から考えるメンタルヘルス対策」

張 賢徳（帝京大学医学部附属溝口病院精神科教授）

「市民運動としての北海道いのちの電話の活動」

南 楨子（北海道いのちの電話理事長）

「自死遺族を取り巻く状況と課題」

吉野淳一（札幌医科大学保健医療学部看護学科教授）

「自殺予防教育の実際」

阪中順子（加古川市教育委員会青少年育成課カウンセラー）

指定発言 岡崎大介（北海道立精神保健福祉センター所長）

：パネルディスカッション

司会 河西千秋（札幌医科大学医学部神経精神医学講座教授）

参加者：133名

なお、このシンポジウムの内容は本会の広報誌「心と社会」169号（平成29年9月15日発行）に収録した。

②第72回精神保健シンポジウム（千葉）

日時：平成29年9月16日（土） 13：00～16：30

会場：千葉大学医学部第一講堂（千葉市中央区亥鼻1-8-1）

共催：千葉大学大学院医学研究院精神医学（伊豫雅臣教授）

テーマ：子どもと親のところに今何がおきているのか

～いじめ・虐待・発達障害～

内容：基調講演「ライフサイクルと発達障害（神経発達症）

いじめ、虐待との関連を含めて」

松本英夫（東海大学医学部専門診療学系精神科学教授

シンポジウム

「児童精神分野としての発達障害とストレス関連性障害・虐待」

高岡昂太（千葉大学こころの発達教育研究センター特任助教）

「成人精神分野としての虐待の背景

（親の双極性障害・ADHD・虐待の連鎖）」

伊豫雅臣（千葉大学大学院医学研究院精神医学教授）

「司法精神保健の立場から」

椎名明大（千葉大学社会精神保健教育研究センター治療・社会復帰支援研究部門特任准教授）

総合討論・質疑応答

座長 細田 豊（千葉大学医学部附属病院子どものこころ診療部助教）

参加者：73名

なお、このシンポジウムの内容は本会の広報誌「心と社会」170号（平成29年12月15日発行）に収録した。

3. 広報誌「心と社会」の発行

今日の精神保健福祉が直面する重要課題を取り上げるとともに、国内や海外

の精神保健福祉に関する最新情報を掲載した広報誌「心と社会」を次のとおり発行した。

- ①168号（平成29年6月15日発行） A5判 184頁 2,000部
特集 メンタルヘルスの集い(第31回日本精神保健会議)
「子どもをめぐるみんなの課題～虐待の連鎖を断ち切る～」
- ②169号（平成29年9月15日発行） A5判 118頁 2,000部
特集 第71回精神保健シンポジウム（札幌）
「身近なひとの“こころの危機”に向き合う」
- ③170号（平成29年12月15日発行） A5判 126頁 2,000部
特集 第72回精神保健シンポジウム（千葉）
「子どもと親のこころに今何がおきているのか
～いじめ・虐待・発達障害～」
- ④171号（平成30年3月15日発行） A5判 124頁 2,000部
特集 現代のアディクション事情

4. 精神保健福祉関係冊子の出版

1) 昨年度に引き続きこころの健康シリーズⅦとして、現代社会の様々なメンタルヘルスに関連した問題を取り上げる「21世紀のメンタルヘルス」（B5判8頁）を以下のように発行した。なお、発行後はホームページに掲載し閲覧できるようにした。

①No.5 予防とは何か

日本で“最も”自殺の少ない町の調査から気づかされたこと

慶應義塾大学 SFC 研究所・上席研究員 岡檀 著

平成29年6月発行 3,000部

②No.6 SNS使用に伴うコミュニケーション問題

独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター

インターネット依存治療研究部 橋本琢磨ほか 著

平成29年9月発行 3,000部

③No.7 インターネットを活用した簡易型認知行動療法による

職域メンタルヘルス支援

国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター

加藤典子・宇都宮健輔 著

平成29年12月発行 3,000部

④No.8 インターネット依存に関係したコミュニケーション問題

独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター

三原聡子ほか 著

平成30年3月発行 3,000部

2) 「図説・日本の精神保健運動の歩み2002」の改定・増補版編集に着手

呉秀三「精神病者私宅監置ノ実況及び其統計的観察」刊行100周年記念事業の

ひとつとして、2018年秋に発行を予定している「図説・日本の精神保健運動の歩み 2002」の改訂増補版の編集作業に着手した。編集委員には樋口輝彦理事を委員長に、外部から竹島正（川崎市精神保健福祉センター）、後藤基行（国立精神・神経医療研究センター）、中村江里（慶應義塾大学）の各氏の他、小峯和茂（小峰研究所）がアドバイザーとして参加している。

5. 記録映画「夜明け前一呉秀三と無名の精神障害者の 100 年」の製作に着手

100周年記念事業の一つとして企画した記録映画「夜明け前一呉秀三ともものいわぬ精神障害者の 100 年」の製作に着手した。本映画は当会ときょうされん、映画製作会社の有限会社イメージ・サテライトの3者で記念映画製作委員会を構成し、監督に今井友樹氏を迎え2018年5月の完成を予定している。当会は、本年度及び次年度にかけて募集している呉秀三記念事業に関する特別寄附金から製作費の一部を負担する。

6. 公益社団法人日本精神保健福祉連盟の一員として、国内の精神保健福祉諸団体とともにその活動に協力した。また、広報誌「心と社会」の海外ニュース欄にて世界の精神保健関連情報を紹介した。